

幼稚園教育學講義

——神戸に於ける講演——

文學博士 谷 本 富 述

第二章 スタンレーホール氏

の意見

前回には幼稚園を寧ろ幼兒の保護機關であると云ふ上から見てお話した。即ち幼稚園を社會主義的に見やうと云ふので、それは一つの新しい看法であり、従來のフロエバル派には太だ乏しい所である。

それはそれとして又幼稚園を兒童學的に観ることは最肝要で、此の點でもフロエバルのは哲學的神學的に偏して居ると謂ふを免れない。畢竟當時はまだ生物學や心理學、兒童學が十分に發達して居なかつたから、それ等の學に根據のないのは無理ならぬことであるが、然しそれにてはフロエバ

ルのいつた事が今の學問に當てはまつて居るのは蒙い。

そこで今日の幼稚園は兒童學に依らねばならぬとするが、所謂兒童學とはベエドロジと稱し、兒童の身體及び精神を研究する學で、これを基礎にしなければならぬ。要するに今日以後に於ける幼稚園はといへば一、ソマトロジを本位にすること。二、サイコロジを本位にすることが肝腎である。然しなからこれ等の學を研究するに當つて單に小兒丈のことを研究したのではいけぬ。同時に凡ての生物を研究せねばならぬ。それは發生學的に研究せねばならぬ事だ、これが即ち又進化論の研究となるのである。

蓋し廿世紀の幼稚園論は社會主義と進化論の上

に基くべきである。従つてフロエベルは幼稚園の元祖ではあるが、其の外に幼稚園の發達の爲めに大に力のあつた人がある。其の人々を今三人擧げる。それは米國の Kerkpatrick といふ有名な人の説であるが、その人の云つた三恩人は即ち英國のダルウキン獨逸のプライエル、米國のスタンレーホルルの三氏のことである。

Darwin 氏(1809—1882) 人間及動物に於ける情緒發現論を著し Preyer (1818—1897) は兒童の精神を著した。而して Stanley Hall は現に米國クラーク大學の總長で有名なるヘタゴヂカルセミナリーと云ふ雜誌の主幹者である。

青年に關する大小二種の名著があるが小の方は youth(1908) で我國では同志社教授の和田文學士の翻譯に依つて『青年期の心理及教育』と題して大に行はれて居る、然かも又それは兒童少年の研究にも第一の参考書である。

尤も此の外に夫の就學時の兒童の心的内容を調

査したのもスタンレー、ホルル氏で、それは別書があるが、米國人 Mckeever は近著の *Outlines of Child Study* (1915) の末に色々参考書を三通りに分けて掲げ、而してその第一は右の youth を推すとしてある。然らば幼稚園の事を研究せんとする者は勿論フロエベルの『人類の教育』を讀まねばならないが、その前にルソーの『エミル』を讀み、又その次にスタンレーホルルの書を讀まんことを勧めめる。和田文學士の翻譯は頗る上出來で、近く再版せらるゝさうな。

尙ほ兒童研究の参考書には英人の Daumholdt のものなども近頃翻譯された様だが、アレは自分は早く大學でも紹介したが、餘り良い本とは考へなんだ。それよりも最近に同夫人の著はされた *The Dawn of Mind* (1918) の方が遙に良い様だ。同夫人は書中に兒童研究の恩人として *Anna* 女史これは米人で親族の一兒の發達を丁寧觀察記録した人 Preyer これは獨逸人で自家の子供を一層丁寧

に記録したもの、而して最後に英人 Sully の書物も亦父の立場から書かれて居る (The Child Study) が自分も今度此等の諸先輩に倣つて姉妹の兩兒に就いて研究し、その結果此の本が出来た。

その中の一節に、これまでの心理學者は、視覺的心象は頗る早くからある様に言つて居る。然かも自分の研究した所では視覺的心象は案外遅く發達する様に見受ける。故に子供に手本を見せて書かすのはだめである。各國今日往々六才前に子供によむことを教へてよいといふ議論があるが、然し四、五六才の幼兒は手本を見せることは不適當である。云々

スタンレーホール氏には又別に『教育上の諸問題』Educational Problems (1911) といふ名著がありその中に幸に幼稚園の教育といふことが細かく書いてある。

第一、フロエベルの功勞を贊嘆して九ヶ條の點が擧げてある。第二、現在の幼稚園の欠點—これ

は四ヶ條。第三、改良意見—これは七ヶ條ある。右を一々説明して見ると次の様である。先づロエベル氏より始めて見る。

一、フ氏は生物學や發生學を知らないに拘らず所謂反復説の考を持つたことが偉い。

反復説とは一代の間に子が人種の歴史を繰り返す、そして子供にならぬ前胎内では下等動物のことをくりかへすといふことを説いたものである。

二、普通の心理學者は知力が意志に重きを置くがそれ等は後に發達するもので、初めは感覺である。この感ずるといふことが基である。色々の本能が基であるといつて居る。これを早く知つたといふ點に於てフロエベルはゑらい。

三、自動といふことを主張したのは現代の新しい考と同一である。興味と云ふことになるがこれが心の泉であつて、それが遊戲である。これがフロエベルの卓見である。

四、フロエベルは一元論である。萬有神教の汎神論的である。これが幼稚園で我も人も神の榮の中に働くといふ意味に於てデモクラシーであるべき筈である。

五、人間の天性は非常に根深く蔓るものである、夫を人間わざで左右することの出来ると思ふのは間違であるから、教育は天性を開發するものであると謂つた。

六、子供は決して青年に成るの準備ではない。各段は各段の固有の價値を持つ。即ち各段毎にルジメンタリー即野蠻人、動物時代の残りの藪である。此の性質を適當に發揮するのがよい。乃ち人を束縛せずして我々の周圍に三つのことがある様にし、調和　ロ、自由　ハ、親愛この三つを我々の周圍の空氣にすること。が肝要だとした。

七、一切を舉げて兒童と共に生活せよ。
我々はい松の持ち手である、子供に全力を注

ぐべし、一國一社會の隆盛は子供にあるとは卓見である。

八、直感によつて知るのであるから、繁多なる手數を要せぬ、分拆もいらぬ、たゞ子供に直感させよ。

九、子供の健康が大切である、草木の如く日光にあてるがよい、それが眞のキンダーガルテンである。

以上フロエベルに就いての九ヶ條である氏の偉大な點である。

然かも現在の幼稚園の缺點は又色々あることを免れない。

一、今の幼稚園には母のする様な遊戯が多過ぎる
(飯事、洗濯等)

二、恩物に信賴し過ぎる。符牒を先きにして實物を後にする。

三、幼稚園で圖畫を書かすのにあべこべの仕方をなして居る。その譯は子供は始めから具つた畫

を書いて見るのが好きであるのに、無理に無意味な曲線や直線をかゝして見る。

四、傳染病の注意が田舎の幼稚園などでは行き届いて居ない。

斯く言つて其次ぎにホール氏自身の改良意見を云ふて見ると以下の様なことである。總論、幼稚園が教育の場所でなくて兒童の保護機關であるといふ意味に於て幼稚園の保姆はほんとうの保姆であつて教師ではない。そして學者は禁物であつて母であつてほしい。此の意味に於て既婚の人が適して居る。若し詳細の點を擧ぐれば、

一、兒童を強健にすること。

全身併に各部分を運動させることが肝要である故に、ダンスをさせたり、球投をさせることは最もよい。又繩とび、たこあびなどもよい。

二、人形は最必要で道具類も多いが好い。又花卉よりも動物の興味が先きである。

三、言語の練習をする。

外國語を教へること、國語を正しく話す様に注意すること、それにはまづ先生の言葉に注意すること。

四、話の種類を多くすること。

即ち、童話、神話、動物の話、旅行談、冒險談などの如きもの。

五、音楽が主である、同氏はヴァイオリンを賛成する。而して兒童に良い音楽を聴かすことと、歌と身體とを連絡して動かすといふことが必要である。この事は十年前に獨逸のワイマルで議決された。

六、種々の木材や石材などを多く備へて置いてその利用の途を工夫させ、且つこれによりて建築術上の智識を得させること。

七、室内保育を避けること。

室内で保育するから健康上に悪いのである、元來雪といふもの程健康を増すものはないから、雪後の屋外の運動は最もよいのである。